

博物館  
だより

# ミニミニマイズ



第 195 号

2011.7

## 巨大地球儀 がやってきました



この度、百周年記念のリニューアルの目玉の一つとして直径 170cm もの巨大な地球儀が博物館に仲間入りしました。ホールのらせん階段を上っていくと、左手に徐々に迫力ある地球儀が現れてきます。世界の鉱山の分布を展示しようと企画されたもので、現在、国際資源学教育研究センターと地球資源学専攻の先生方に、金属の種類ごとの分布図を作成していただいています。それを基にサイエンスボランティアの方の協力により、600 以上の LED を使って金属種と鉱山を表示する装置の製作が進められています。ボタンを押すと世界に分布する資源を一目で把握することができます。完成するのを楽しみにして下さい。

### 搬入から設置まで ▶



1  
トラックからクレーンを使って下ろします。



2  
入口ドアを外し館内に運びこみます。



3  
ワイヤーをつけて吊上げます。



4



5



6



7



8

天井に取りつけた機具で、1F から 3F までの吹き抜けのホールをぐんぐん引き上げていきます。

展示場所に下ろし、地軸の傾きなどを調整しながら注意深く設置します。

## 標本の紹介 シーラカンス化石

★ブラジル産 ★長さ約 50cm

シーラカンスは約 3 億 6000 万前に地球上に出現しましたが、恐竜の絶滅と共に絶滅したと思われていました。しかし 1938 年に南アフリカで発見され、現在は東アジアやインドネシアなどの極めて限られた地域で確認されています。魚類が陸上生物に進化する過程の姿をとどめており、ダーウィンは「生きた化石」と呼びました。特徴は、ヒレが 8 枚とたくさんあり手足のような長い形態をしていること、骨格の多くが軟骨でできていること、浮き袋には脂肪が詰まっていること、また直接稚魚を産み落とす卵胎生であることも解剖により証明されています。この太古の魚の化石は、2F の化石コーナーに展示されます。謎に包まれた神秘の魚にぜひ会いに来て下さい。

